

パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト選考副委員長 飯田昭夫

優秀賞に選ばれました皆さん、おめでとうございます！

また、ご指導頂きました先生方、感謝申し上げます。

パテントコンテストは第18回、デザインパテントコンテストは第11回、年々応募件数も増加し、実質的競争率も高くなってきました。例えば、今回のパテントコンテストの応募件数は724件で前年比186件の増加です。デザインパテントコンテストは651件で前年比1件の微増でしたが、確実に応募件数は増加しています。ところでこのコンテストの目的は、単に優れた発明・デザインの評価ではなく、発明・デザインを日本の産業のために役立つように権利化する手続きを体験して頂く実践教育のためのものです。優秀賞に選ばれました皆さんにおいては、権利化までの手続きを通じ知的財産制度に対する理解を更に深めて頂きたいと思います。

1. パテントコンテストの講評

高校の部で特徴的なことは、応募校が激減（52校→38校）したにもかかわらず、応募件数は激増（286件→519件）したことです。技術分野としては、日用品、文具、生活用品が多いですが、それぞれ着眼点はよくアイデア的にも素晴らしい発明が多く見られるようになりました。しかし、アイデアを製品化するために必要な構造・機構が説明されていない案件もまだ多く見受けられます。優秀賞に選ばれた案件は、先行技術調査に基づき、従来技術と応募発明の技術的効果の差が明確に示され、実施可能性が高いものです。

高専の部は、残念ながら応募校が18校から16校に減少し、応募件数も昨年の135件から89件に減少しています。しかしながら、高専らしいレベルの高い発明が多く、教員の指導がしっかりしている結果がでています。先行技術との差別化をより明確にすることが望まれます。先行技術との対比で選考結果が分かれたともいえます。但し、2年続けて優秀賞に輝いた学生もいます。

大学の部は、応募校（12校→19校）、応募件数（111件→115件）と増加しています。発明の技術内容は専門分野に関係するものに限定されることなく、生活関連品もあります。今回の特徴は、デザイン系で有名な大学から本コンテストへのチャレンジがあり且つその案件が優秀賞に選ばれたことです。デザインから技術を考えるという最近の傾向があらわれています。結果的ではありませんが、優秀賞を受賞できたか否かは、実施可能性の判断で差がつかしました。試作品を作られ検討された案件も増加してきています。理論だけでなく実験することにより新たな問題点を見出し解決してきた多くの応募者に感謝いたします。

2.デザインパテントコンテストの講評

高校の部では、応募校が減少（45校→31校）しましたが、新規校が5校ありました。「創作の意図は理解できるが、デザインの創作性の高さ、デザインの表現でまだまだ」という選考委員の評価をうけたものが多くあります。まだフリーハンドの図面が見受けられるのが残念です。

優秀賞の対象となりましたデザインは、デザインの実用性と販売可能性に魅力が認められるものといえます。

高専の部は応募校数が10校から5校に激減しましたが初参加が1校増えました。高専らしく、機能を追及したデザインが目立ちましたが、機能的で斬新な形態のデザインと、ユニークさと機能面を兼ね備えたデザインが採択されました。

大学の部は、応募校が減少（16校→11校）しましたが新規校が2校ありました。さすがに大学というデザインのレベルの高さが評価できる案件です。

常連校での争いでしたが。新たな芽が出てきたことを高く評価したいと思います。

我が国は、世界有数の化学・技術力を有する国として成長してまいりました。その底力を支えているのが皆さんです。まったく新しい技術・プロダクトデザインを創設し、イノベーションを生み出す潜在的能力を有する証がこの優秀賞です。是非、皆さんの創造力を高め、新しい未来を築いて頂きたいと思います。